

六甲山の美しい自然に包まれて。エキゾチック神戸の香りが漂う、くつろぎの空間。

六甲ガーデンテラス

阪神間の眺望スポットとして、またハイキングや避暑など、大正時代から地元の人々に親しまれ、愛されてきた六甲山。今も変わることなく、ゆっくり流れる時間。そして美しい自然に包まれた六甲山上には、様々なレジャー施設が点在しています。今回は、今年4月の誕生以来、来場者数49万5千人を超え、六甲山上周辺施設の起点となる新しいシンボル「六甲ガーデンテラス」をレポートします。

レポーター／松村園子



六甲ガーデンテラスより神戸港を望む

神戸の街のセンスを、そのまま六甲山へ

六甲ケーブルから山上バスに乗り換えて、標高880mの六甲山上へ。都会の喧噪を瞬時に忘れさせてくれる豊かで美しい自然。その中で、どこか異国にまぎれこんだかのような雰囲気を感じているのが展望スペース「六甲ガーデンテラス」です。

小さい街のようなかわいらしい空間は、エキゾチックな建物が中庭を囲むように造られています。まずは、石造りの展望台「見晴らしの塔」に向いました。明石海峡大橋から関西国際空港、大阪市内まで一望できるダイナミックな風景は、まさに壮大！祖父が神戸に住んでいたため、六甲山には子供の頃から慣れ親しんできた私ですが、この景色はいつ見ても感動します。今度は、函館、長崎と並んで日本三大夜景とも称される、六甲山からの夜景をこの場所で見たいと思いました。

景色を堪能した後は、ヨーロッパの山小屋風の建物が印象的な「グラニットカフェ」へ。オープンテラスで野鳥の声を聞きながら頂く有機コーヒーは、また格別！コーヒーブレイクが済んだら、お楽しみのショッピングです。神戸セレクト雑貨ショップ「ホルティ」は、世界各国の素朴な手作り雑貨をはじめ、アーティストの作品やオーガニック食品など、お酒落な生活雑貨が揃っています。ほかにも個性的なお店があり、これまでの六甲山のイメージとはひと味違う、神戸の街のセンスが随所に光っていました。



ショップ ホルティ



六甲・有馬ロープウェイ



グラニットカフェのオープンテラス



見晴らしの塔



グラニットカフェの室内



ジンギスカンバレス



六甲ケーブル



六甲展望ビル

“お庭のような感覚”で日常的に山を愉しむ

「六甲ガーデンテラス」は、「阪神間にお住まいの中老年の女性の方々に、気軽に散歩をするような感覚で来ていただきたいです」と、話す関係者の方。わざわざ六甲山に観光に行くというスタンスではなく、六甲山を自分の家の庭のように思い、リラックスして日常的に愉しむことこそ、お酒落で贅沢な神戸らしい“遊び”なのかもしれません。確かに、私が訪れた時も中老年の女性の方々が、皆、思い思いのスタイルでゆったりとした時間を過ごしていました。

大阪・神戸から1時間以内の距離ということもあり、友達を誘って、日々の慌ただしさからちょっと抜け出すには、格好の場所と言えそうです。

六甲山を一体化する、新しい開発事業

六甲山の歴史は古く、明治28年にイギリスの貿易商アーサー・H・グルーム氏が別荘を建てたことにはじまります。その後、大正12年に阪神グループが六甲ケーブルを開業。以来、今日まで六甲山の開発事業に取り組んでこられました。六甲凌雲台エリア周辺に、「六甲山カンツリーハウス（六甲山人工スキー場）」をはじめ、「六甲高山植物園」、オルゴールミュージアム「ホール・オブ・ホールズ六甲」など様々なレジャー施設を運営し、地元の人々の娯楽の場所づくりに長く貢献してきたのです。

「六甲ガーデンテラス」は、阪神グループがこれまで蓄積したノウハウを集結させた、六甲山上レジャー開発の新たな取り組みであり、そのシンボルです。六甲の自然とエキゾチックな神戸を一度に味わえる今までにないこの展望スペースが起点となって、近隣施設の活性化にもつながっていきます。そして、新しい視点の環境整備によって生まれ変わった六甲山は、これからもずっと地元の人々の心を癒し続けるのだと思いました。

●電車・バス・ケーブル利用の案内



※表六甲・裏六甲ドライブウェイは無料。
※山上道路はチェーン規制が出る場合がありますので、注意が必要です。

◎ホームページ <http://www.rokkosan.com>



見晴らしの塔からの眺望